

建設通信新聞

スペーシャリストの会が全国大会

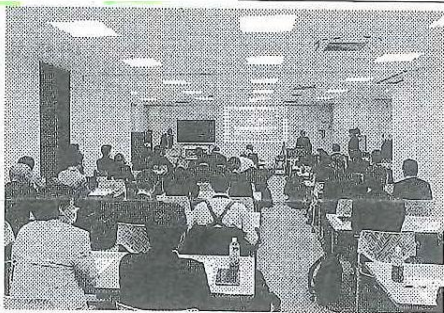
空間情報の将来展望

空間情報の専門家であるスペーシャリストの会（早川和夫会長）は9日、東京都文京区の日本測量協会で2023年度空間情報未来会議（スペーシャリストの会全国大会）を開いた。写真。対面で

の東京会場とウェブ配信した全国9会場を合わせて約210人が参加し、空間情報技術の最新動向を共有することも、将来の展望を探った。同協会が共催した。同会は空間情報総括監理技

術者の資格認定者による専門家の会として05年11月に発足。23年度での資格者数439人のうち、10月1日現在で376人が会員となっている。

設立から18年にわたって会



をリードしてきた瀬戸島政博前会長（日本測量協会）は冒頭で趣旨説明に立ち、測量系で最高位の資格者集団として「発表では単に現状の報告と問題点や課題を提示するだけでなく、われわれの技術とその将来を展望し、明日を占うところまで言及してほしいとプレゼンターには要請した。それに基づいてわれわれはどのような行動すべきか、ぜひ聞き耳を立てて発表を聞いてほしい」と呼び掛けた。

この後、金沢工大の前副学長で国際高等専門学校校長の鹿田正昭氏が「金沢工業大学における教育・研究の振り返りと国際高専での挑戦」、中部大理工学部AIロボティクス学科の藤吉弘巨教授が「BeyondXAI…人と共に進化するAI」と題してそれぞれ特別講演した。「私たちの技術とその展望」をテーマとしたスペーシャリ

ストの会発表では、5人の会員の「地図表現の変遷と今後」「空間情報とデータ駆動型社会の関係」「ALBの今後の展開」「文化財（建造物）への空間情報技術のこれから」「デジタルツイン構築に向けた3次元地理空間情報の役割と今後の展望」について、それぞれ提起した。